

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲・乙 第 3265 号	氏名	石川 琢也
論文審査担当者	主査 渡井 有 教授 副査 深貝 隆志 教授 副査 伊與田 雅之 教授		
論文題名：機能性便秘症を伴う下部尿路障害を有する小児における腸内細菌叢の検討			
掲載雑誌名(巻・号・頁・掲載年)：昭和学士会雑誌，第 81 巻，第 6 号，2021 年 掲載予定			
論文審査結果の要旨			
<p>ヒトの腸管内には多くの細菌が生息しており腸内細菌叢を形成している。近年、腸内細菌叢の変化が様々な疾患の発症と関連すると言われている。本研究では下部尿路障害の児における腸内細菌叢の分布を調査することを目的とした。下部尿路障害の児（疾患群）と健常児（対象群）の腸内細菌叢を比較し、疾患群は全例が機能性便秘症を伴う過活動膀胱であった。疾患群では <i>Clostridium</i> 属と <i>Lactobacillus</i> 属が有意に増加していた。過活動膀胱の小児では機能性便秘症の合併が多く、便秘症の腸内細菌では <i>Clostridium</i> 属が増加するため、今回の結果は下部尿路症状に特異的なものではなく、基礎疾患による変化の可能性がある。<i>Lactobacillus</i> 属は過敏性腸症候群で増加するが、疾患との関連性は不明である。下部消化管の支配神経は下部尿路にも関連するため、<i>Lactobacillus</i> 属の増加が畜尿排尿機能に影響を及ぼす可能性がある。また、腸内細菌は腸脳相関を介して脳機能を変容させると言われており、腸内細菌は排尿を司る前頭前野にも影響を与える可能性がある。本研究では腸内細菌叢の変化が直接下部尿路症状に関連しているかどうかは不明だが、プロバイオティクスによって基礎疾患の改善が期待でき、下部尿路症状にも何らかの影響を与える可能性がある。</p> <p>本論文は本学大学院学位論文(博士)審査基準を満たしており、学位論文に値すると判断した。</p>			

(主査が記載)